京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年
定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料 五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告は五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久一郎
印刷人 松久[illegible]一郎
發行所 京城西小門町 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜錄

殖民地棉花栽培
事業の由來(三)
エスケー生

左れば斯かる重要なる產業に於て若し一旦其原料品の缺乏を來す事あらんか是れ實に全世界に亘る經濟上の一大問題と謂はざるべからず、而して今や不幸にして此時代に逢着しつゝあるなり米國南北戰爭當時に於て米國棉の產額大に減じ、一時世界に於て「原棉の飢饉」を現出したる事あり、其結果價額暴騰して一封度の棉花につき十一錢より一弗三仙迄突飛し、九倍以上の昂騰を告したを以て、勢ひ自から印度及び埃及棉の增收を來し、西班牙、葡萄牙並に中央亞細亞等に於ても亦多少づゝ棉花の增作を見、因いて自から價額の下落を來し、漸くにして[illegible]棉の饑饉を保つを得たりしも、爾來約半世紀間棉製品の需要は人口の增加と文明の普及と相俟つて益々增進し、其結果として現今米國棉の收穫高にして少しく減少を告ぐれば、世界各國の人民は非常に高價なる被服費を支拂はざるべからず而して今後に於ても亦棉花に對する需要額の增加は其收穫高の增加に比し一層[illegible]なる速力を以て進行すべきは[illegible]論の略一致せる所なり、或る統計家の說によれば現下世界の總人口は大約十五億にして內五億人は完全に被服を纏ひ、七億五千萬人は半ば衣服を纏ひ、他の二億五千萬人は全然衣服なきものなれば、今後文明の進步に伴ひ世界の總人口に對し完全に衣服を供給せんとせば一人の棉花消費年額十五封半と見積り、總計每年四千二百萬俵の棉花を必要とする事を以て、此時代に到達せば現今の棉產額に比し約二倍半の原棉を生產せざるべからずと云へり、該統計の果して正鵠を得たるや否やは暫らく別問題とし、兎も角最近の傾向に於て原棉の益々不足を告んとせるは爭ふべからざる事實にして、現に此數年間原棉市場は非常の逼迫を來し價額は逐次騰貴の傾向あり、左れば今日に當り大に棉產地域の擴張を圖るに非らずんば世界の棉業界は遠からずして再び米國南北戰爭時代に於ける棉花饑饉時代を現出すべきや必然にして、是れ各國棉製業者等が最近競て棉花栽培事業に熱心しつゝある所以の一とす

朝鮮に於ける煙草栽培の實驗(二)
水原 川口甚太郎

培土　培土は移植後二十日前後に於て之を行ひ先づ畦間を耕し次で細土を根元に培ふ此際一人は鍬を以て土を寄せ一人は双手を以て煙草の下葉を掲げ其埋沒を防ぐべし

摘心　摘心は幹勢の強弱により深淺の差ありと雖も朝鮮の如き初夏の頃動もすれば乾燥過度なるの地に於ては之を二回に行ふべし其一回は花蕾抽出し一二輪開花したる頃一二葉高く之を行ひ而して蕾生育の勢全く固定するを見て第二回の摘心をなすべし若し之を一回に行ひ了るときは其後雨季に入り肥料後れて其効を顯はし隨つて生育の勢力再び旺盛となり爲に收穫期遲延し遂に品質を損するの患あればなり又摘心は必ず晴天を撰びて之を行ひ雨天を避くべし腋芽は[illegible]の際併せて之を除去するに努むべし

蟲害としては蚜蟲螟蛉、根切蟲、黒金龜子の幼蟲(じむし)天鵞絨金龜子、象鼻蟲、綿蟲等なり天鵞絨金龜子幼蟲は移植當時より培土期に至るまでの間に蝕害し蚜蟲、螟蛉及綿蟲は培土後(六月中旬)より發生す殊に被害甚しきは蚜蟲螟蛉等にして之等の豫防法としては捕殺するを最可となす尙芽蟲は驅除劑として除蟲菊乳劑、石油乳劑等の液劑を撒布するを便とす病害は甚だ僅小にして濕潤地に於ては稀れに立枯病、白澁病、縮葉病、赤斑病等を見ることなり

成熟及收穫　土葉は摘心後より自然に黄變し來るもの三四枚を採り中葉は其次に位するもの五六枚の漸く黄變したるを採取し本葉天葉(天葉三四枚)は移植後九十日內外を經過し二番摘芽を終り而して幹莖は既に堅剛となり葉は淡黄綠色を呈し且葉尖下方に垂れ透成するときは既に黄斑點を帶ぶるに至る之を成熟の兆候として採取す即ち此際午前八時半頃より一枚つゝ葉を掻き取り籠及搬器に包みて倉內に運搬し直ちに醱酵に着手す是れ普通聯乾法を行ふものなり而して幹乾法に由るものは前記の如く收穫の適期に於て莖下二三寸の處より刈採り損傷せしめざる樣注意して運搬し直ちに懸吊に着手すべし

外事一束

▲清廷　已むなく資政院及軍人の決議十二ヶ條の要請を採用し其の結果即ち
▲皇族內閣廢止、憲法草案附議、革命黨大赦、皇帝親から咎るの上諭下る
▲哀痛　の上諭何等効なく軍人及資政院議員街は滿足せず更に衝突あらんと
▲攝政　王兵亂を憂ひ皇帝を擁護して熱河に蒙塵せんとし諸臣之れを諫止す
▲露清　條約改訂談判は騷亂の爲め改定方針に變更を來たし露外務省其在清
▲領事　に命して清國の現狀に關し報告を促す其結果或は意外の協定を見ん
▲三國　シンヂケートの對清國大借款一億五千萬法用日を以て愈本調印を終る
▲廣東　市民各戶に民國獨立の旗を樹て市民歡呼狂喜して獨立を祝す然るに
▲總督　態度を豹變し直に革命旗を撤去せしむ市民爲に恐慌を來し人心洶々
▲河內　の民革命亂を知らず適々之れを聞くも外省のことは我等關せずと
▲諸歐　州列國政府は君府駐劄各大使に居中調停の爲め土政府の意嚮を精探

梁川庄八
小金井蘆洲演

第二十六回

親「サア此方へ這入てくれ、時に孝太郎他の事でもないが、早速ながら前は當家の娘れ勝と懇ろになつて居るさうだな」 孝「……」 親「イヤサ隱すには及ばぬ……、其方は未だ獨身者娘も許嫁のある身ではなし、不義には違ひないが出來た者は仕方がない、けれ共夫を知らずに親仁が御代官の倅甚三郎殿がれ勝に迷ふて是非に貰受けたいと云ふ退引ならぬ懇望に、斷るにも斷り切れず[illegible]にならば取らせうと、[illegible]付けた[illegible]所謂の外にも、甚三郎殿は[illegible]に生れながら、弟御の傳之助殿に家督を讓り自分は隱居をして貰つてれ勝の聟に來やうと云譯なんだ、御代官樣と縁を組めば傳兵衞殿の爲の譽れとなる事でもあり、且つは[illegible]モヤと思つて云つた事が實となつて、今更あれは左う云考で云つた譯ではござりませんと斷る譯にも行かず、據なく承知はしたがれ前も知つての通り甚三郎殿は醜夫だから、れ勝は否やがつて何と云つても承知をしない、兩親もほと〳〵弱り果て乃公達を頼んで、何うかまあ二月なり三月なり娘を承知させて呉れと云ふから、母が本人に話した所が、れ主と譯があると云ふ乳母のれ芳も云ふ、就ては孝太郎何うか右の譯だから是迄の事は夢と諦めて呉れ其代りに田地を二反に金を五十兩出さうから夫で貴樣手を切て貰ひたい又乃公達も是から先何やかやれ前の利益になる樣に仕樣から、何うか乃公達の顏に免じて納得してくれ頼む」 孝「是は近頃怪しからん事で御座す私が御當家のれ嬢樣と內々親の許さぬ約束をした事が露現を致しますれば何共申譯が御座いません、[illegible]御迷惑樣が出來ましたのは何よりれ悅ばしい事でございます、私とれ嬢さんの間柄は不圖した間違で、強て御約束を遂げやうと云考は、毛頭御座いませんから、私がれ嬢樣に御目に懸つて御意見申して互いに夢を見たと云事にして、快よくれ別れ申たう御座います[illegible]金を下さるの田地を下さるのと云事は平に御免を蒙ります、聟樣の御出の御邪魔を致したとか、示談金を取たとか、田地を貰つたとか云はれましては、是迄厚き御恩になりました御當家樣へ恩を仇で返す樣な譯、左樣な心は露ほども御座いませぬ……」と云のを一同聞て手を拍て感歎し 親「ウム……偉い〳〵れ前は學問をした人でもない、能く[illegible]早速承知して呉れたとは忝ない、俠氣だと云のはれ前のやうな人を指して云のだ……乃公達は何も田地や金を受ないから賞めるのぢやない、れ前の志の潔白には感心を致しました、此家の娘がれ前に見惚を付けたのも無理ぢやあない、然う云譯なら娘に會つて能く言ひ聞かしてれくれ」 孝「委細承知仕りました」と云ので親族一同立會の上れ勝に面會を致しまして 孝「れ嬢樣只今御親類樣方から細々と承りましたが、此度貴孃のれ身の定まります御趣悅び申上ます、私と貴孃の間柄は迚も末長く添遂げられぬ一時の約束、他人の眼から見れば親の許さぬ不義でございます、然るに此度御代官樣の若旦那樣が御舍弟樣に御家督をれ讓り遊ばして御養子に御入來なさいますのは是は正に結構な御縁でございます、一旦御聟樣と御定め遊ましたられ仲睦まじくれ暮しなさいまして、一日も早く赤さんをれ持遊ばして阿父さん阿母さんの御安心なさるやうになすつて下さいまし、今迄御約束を致しました事は皆不心得千万の事、不調法と悟つたら改めるのが人の道でございませう、今迄の事は[illegible]と諦め下さいまし、私は以後御門前へ通らぬやうに致しますから、貴孃も亦途中で私に御會ひなすつても御言葉をも御掛け下さいますな、と云はれてれ勝は娘氣の耻しさ何と返す言の葉もなき入るばかり、親族の者が傍から、 親「れ勝や今孝太郎の云た事を能く聞分けて親に安心をさせなければ大の不孝になりますぞ」 孝「れ孃樣を判りになりましたな」と遂に飽かぬ缺れを告げて孝太郎、親族一同に暇を告げて何一品受けずに先づ是で罪障消滅をしたと思つて、歸村致しました、田舍の事ですから直ぐ此事が近隣の人々の噂に上り、聞く者皆感心をして孝太郎を賞める、益々孝太郎は人々に愛せられるやうに相成りました。

北京特電

湖口縣の暴動 二日夜湖口縣に革命の暴動起り湖口守備隊は全部直に叛軍に降伏せり

雲南廣西不穩 雲南省の新舊軍隊は叛旗を飜し獨立を宣言したる旨雲貴總督李經羲より電報あり廣西省桂林は陷落したるものゝ如し

奉天軍隊の動靜 師團長會議の上奏案は上諭にて聞き屆けられたるに依り軍隊不穩の狀なし

上海官兵叛す 上海の營防營は全部革命軍に投じたり

袁と革命軍 會見 袁世凱は五日漢口に於て革命軍と會見する筈に

黎元洪の確答 袁の申込に對し黎元洪は革命軍より內閣大臣を採用し速かに內閣を組織する外二十四箇條の要求書を提出し安協すべしと確答したり

憲法宣布と上諭 資政院上奏の憲法は事甚大なるを以て期日を擇び以て天下に宣布すべく該院起草の憲法は其標準に採用すべしとの上諭三日發せられたり

極端なる革軍要求 叛軍は淸帝を廢し國名を漢と稱し總つる事及び革命軍より大總統は國民の公選に依る事を要求し之を容れざれば休戰媾和は到底なし難しと通告す

新內閣と上諭 資政院の新內閣組織に關し左の如き上諭發布せられたり 時局困難政務多端の見地より資政院の奏議に依り之を許可し袁世凱を擧げ內閣總理大臣に任ず該大臣は既に湖北に在り速かに歸京して完全なる內閣を組織し政務を計畫すべし袁世凱未着任以前は慶親王等は其職務を執り事を辨じ袁世凱を其後任として陸軍府を統轄せしむ慶親王等は總理大臣を補佐す

上海電報

官軍武昌砲擊 官軍は四日武昌の砲擊を開始せり

北京の準備 北京は今や革命…となし皇帝を初め各…

皇族は戰亂の準備中なりと

漢口大火全滅 大火の爲め漢口市街全滅し日清汽船會社所有の財産は全部烏有に歸せり

革軍益々熾也 杭州、蘇州、梧州、廣州及南京は遂に革命軍の占領する所となり其の勢益々熾也

東京電報

陛下御發輦 大元帥陛下には福岡縣下に於て擧行の特別大演習御統裁の爲め七日東京御發輦の旨仰せ出されたるが其の御發着日割は左の如し

七日午前東京御發輦同夜靜岡御用邸御一泊△八日靜岡御發輦姬路御一泊△九日姬路御發輦三田尻毛利邸御一泊△十日三田尻御發輦久留米明善中學校着御

土軍の總攻擊 土耳古軍はレシアベー氏は五萬の土耳古軍を統率してトリポリー總攻擊の準備行爲としてトリポリーの封鎖を開始せり

清艦又々叛旗を飜へす 其筋に達したる電報によれば薩鎭氷の率ゆる砲艦三隻は三日叛旗を飜して上江し革命軍の有利なるを見て叛軍に投降したり

獨佛條約調印 獨佛の摩洛哥及公果條約は四日全部調印されたり

上海占領公報 四日陸軍省其他確なる筋に到着せる電報を綜合するに江南製造局吳淞砲臺巡警局道臺衙門等確實に革命軍の占領する所となり直ちに中華民國政府の創立を宣言したり同地の資本家李平書を總督として目下政務に着手す

吳淞砲臺攻擊 四日東京 閘艦總督麾下の軍艦三隻は吳淞砲臺に向て砲擊を開始し革命軍之に應戰中なりとの電報海軍省に達す

雜報

奉天に於ける日清交渉始末

日清兩國の交渉問題は朝鮮より大屋鐵道局長官矢野鎭南浦稅關長の兩氏奉天に出張し事を辨じ居りしが又々滿鐵貝勤は軍督府に照し事を辨じ昌を其後任として陸軍府强して小池總領事と共に其折衝に當りし事は既報の如くなるが淸國側に於ては許交渉使外十餘名立會の上協定をなしたる結果遂に左の如く決定したりと云ふ

兩國境通過の貨物は安東縣に於て日清兩國の官吏立會の上檢査をなす事

旅客携帶の貨物は安東驛にて停車中に檢査をなす事、若し其檢査を終らざる時は兩國の官吏汽車に乘組み檢査する事

國境通過の貨物に對する稅率は日本側の主張として東淸鐵道の陸路貿易規定により海關稅率より三分一を減額する事に交渉したるも淸國側は之を承認せざりしを以て近々交渉の上其決定を見る迄條件は支那(アンダープロテスト)となす事

●移出生牛增加

內地に移出する生牛は昨年に於て合計千二百九十九頭なりしが本年は一月より九月迄の合計に於て千六百四頭に達したるが右增加の原因に關しては當局者も目下講究中の由にて多分內地に於ける蟹種牛が農家の使用に稍適せざるものあり寧ろ在來の內地牛又は朝鮮牛の良好なるを感せし結果に非ずやと云ふ

●御下賜金授與式

京城府にては去る七月の洪水に際し水害罹災民に對し救恤御下賜金ありたるに依り夫々調査する處ありたるが既に調査を了へたるに依り今六日午前十時府廳に於て日人三名同午後一時龍山事務所に於て鮮人十六名七日午前十時龍山面事務所に於て日人十名同午後一時同所に於て鮮人三十三名警察官立會の上大庭府尹より夫々御下賜金分配授與する事とせり

暴動と朝鮮貿易(一)

清國…朝鮮總督府度支部第二回調査…

在上海貿易調査囑託員報告の要領左の如し

△甲、上海金融狀況 墨銀百弗に付き

十月十五日 同 七十六兩替
同 十六日 同 七十七兩半替
同 十七日 同 午前七十九兩替 午後八十三兩半替
同 十八日 同 八十七兩七錢替
同 十九日 同 八十三兩替
同 廿日 同 七十八兩替
同 廿一日 同 七十七兩半替
同 廿三日 同 七十七兩替

以上數日間の墨銀の高低は實に近年に稀なる大變動を來せるものにして普通上海に於ける墨銀の相場は百弗に付て七十三兩の間にあり然るに海關附近七五万至七六兩の間にあり然るに右の如く十九日には八十三兩の暴騰を來たし漸次下落し來りて今日は七十七兩に至り小康を保てり今其の然る所以を詳述せん

△乙、上海恐慌の原因▽

(一)革命黨の漢口武昌に及ぼせし影響 本月十二日革命黨武昌に事を擧げ一擧して武昌漢口を占領し交通通商銀行を燒擊し其の現金を奪ひ官衙の金庫も守衞兵又は小盜の爲に毀たれ革命軍は新紙幣を發行して强制通用力を與へたれば漢口元來の紙幣は忽ち下落して三割引となり四割引となり遂には通用力を失ひたり茲に於て淸國銀行外國銀行及錢莊は預金引出し紙幣兌換の請求に遭ひ基礎薄弱なる淸國銀行は忽ち倒產し錢莊の如き皆閉店せり而して元來漢口には墨銀少なく馬蹄銀及銅錢の流通多く…

●常態を逸せる財界

……竹山一銀支店長の談……

今秋財界の趨勢は頗る好景氣にして今日に於ては輸入超過既に千四五百萬圓にも達すべく遂は全く常態を逸したるものと云ふを憚らず朝鮮の財界を左右するものは米及大豆にして此收穫の豐饒なるに雀躍して無見當に好景氣を煽り恩賜金の流通額や鐵道其他の土木工事に散布せられし金額の約二倍にも達せん斗りの輸入超過を出現し猶滔々として止まる莫きの勢を示せるは慥に低氣壓を釀しつゝあるものと見るを得可し恰かも五十金を懷中して酒樓に飮む者が興に乘じて未だ收入せざる所得を過算して數百金の散財をなすが如きなり朝鮮銀行が夙に此趨勢に鑑みて金利を引き上げたるは自ら中央銀行を氣取りて以て財界に警告を與へん意向なりしならんも朝鮮の金融系統未だ整頓せざるに內地大藏省預金部及第一銀行に損ならず爲に急速に豫期に添はず加ふるに之等は恰も外資の輸入と同じ而して其使途にして勞銀の如く一般に撒布されたる東拓の資金一百萬圓は近く殖工債券の應募額として全國に散布されん乎爲に一時は大景氣を呼び大繁昌を來すならんも結局戰後の日本に於けるが如く猛烈なる反動を齎らす事を免れざるか如し然かも多く之を要せずして見る如く凡そ信用の限度を越して輸入に努め而して其結果も豫期されたる農作物の收入が輸入貨物の半にも達せずんば商況の沈睡計る可からざるものあらん云々

●內地に於ける朝鮮大豆

朝鮮大豆の大阪に移入するものゝ販路は畿內東海、中國、四國等を主とし神戶に移入するものゝ販路は加賀、越前、近江より山陰道一帶に亘り四國並に九州の一部即ち日向、薩摩地方より琉球方面を主なるものとし其用途は各產地により異なれるものゝ如く元山大豆は上品を主とし中品以下は醬油赤味噌の原料に使用せられ南浦大豆は豆腐及び湯葉等の原料に供するも價格割安の場合は味噌及醬油の原料に充用せられ釜山及群山大豆は主として高野豆腐の原料とし時に豆腐の原料にも使用せられ仁川大豆は(主として長湍大豆を云ふ)專ら醬油の原料及地方味噌の原料に供せらる而して最近三年間阪神に於ける朝鮮大豆の輸入數量及價格如左

▽大阪輸入數量價格△

	(數量)	(價格)
四十一年	四四二、四九一擔	一、三〇六、八〇四圓
四十二年	四三〇、五〇一	一、二七五、六二九
四十三年	五三六、三三八	一、六四八、九〇四

▽神戶輸入數量價格△

	(數量)	(價格)
四十一年	二五九、二七六擔	八六九、四九一圓
四十二年	三五一、七四九	一、〇六二、九三四
四十三年	三六三、六一六	一、一九三、〇〇七

朝鮮產大豆と滿洲產大豆との品質比較及特長を記せば左の如し

▽朝鮮產大豆△
(一)產地に依り品質一樣ならざるも概して滿洲產に優れり
(二)光澤を帶び粒狀大なり
(三)脂肪、炭酸質及蛋白質の含有量比較的多し

▽滿洲產大豆△
(一)品質殆ど一定し居れども朝鮮產に劣れるため相場常に下位にあり
(二)光澤劣り粒狀亦小なり
(三)脂肪蛋白質少なく纖維多し

而して特長を擧ぐれば朝鮮產は內地產の代用となり專ら味噌、醬油、湯葉、豆腐の原料として聲價を保ち滿洲產は調製良く品質概ね一定しをれる爲め其取引法朝鮮產に比し簡便なりと

鴨綠鐵橋初渡記(三)

文明的の施設と國賓 大屋君學生時代の夢 スイロー生

●停車場にて日韓瓦斯の岡君に會す、君破顏一笑之れでも喰玉へと衣囊より栗一握を取出す、余直ちに受取りソレを味へ僅かに胃痛を辭して列車內に飛込む

●汽車徐ろに驛を發す、悠々として渡るは是れ鴨綠の鐵橋、其長さ三千九十八呎、世界最大鐵橋中の一と稱す。今や本鐵橋竣工して歐亞交通の連絡成る世界の交通史及び文明史中に大書すべき事實だ。

●之れを聞く、鐵道長官の大屋君其學生たりし時代、延長千呎の鐵橋を架せんことを夢む、今や千呎に三倍せる三千呎の鴨綠鐵橋を完成す、其得意や眞に同慶に値ひす。

●只惜しむ鴨綠の鐵橋を架せるは是れ大屋君なれどもソレに要せし材料は概ね外國よりの輸入に係る、我文明的施設の多くして國益貧するは蓋し之れが爲、思へば殘念にも殘念の至り。

●茲に愉快に思ふは二ケ年の長き工事期間中實百千の工夫を使役せるも只だの一回もストライキの無かりしこと、只だの一人の變死者を出さゞりし事だ。之れを專門家に聞く、總じて架橋工事には工夫のストライキと變死とは附物だソウだ而るに本橋工事に限つて其事なし、斯は大屋君にとつて名譽なる次第だ。

●大屋君の式辭に次ぎ岡村技師の工事報告あり、續いて中村滿鐵總裁、川上平北道長官及び木曾安東領事其他の祝辭朗讀があつた。

●記者の拜聽せしところに因れば當日の祝辭中最も常識的なりしが故に最も上出來なりしは寺內總督のであつた、其餘は一括して評せば宛然是れ高等小學若しくは中學一年生の祝文、而かも大の男が壇上に立ち、會衆を睥下し、ためすまして右の大文章を朗讀せる勇氣、到つては記者をして覺えず舌を捲かしめたが、寺內總督上田軍司令官の如きも噓や噓鵑を塞からしめられたことゝ思ふ。

●式後立食の饗應あり、其肉其菓冷たきこと氷の如く、此寒天に此御馳走到底味ふべくもあらず、如何はせんと思ひ煩へ居る際停車場より報あり、曰く、安東行の汽車數分間の中に發すと。

●スタ博士新發見講演

スター博士は過日平北寧邊地方觀察の際挨及及びトリポリー等に於て爲に見せる鑛石と同一式のものを發見し目下研究中なるが不日亞細亞協會支部に於て右に關する講演を爲すべし

●朝鮮淸風會設立

淵上貞助、近藤佐五郞、山口精一外數名の氏相計り今回朝鮮淸風會なるものを設立せるが右は社會の風紀を振興し精神的趣味の向上を圖るを目的とし方法は新古美術品の展覽會を開き又書畫生花茶湯音樂等の競技會を開く由にて來る二十日日曜日商業會議所に於て第一回美術品展覽會を開催する由なるが茶生花の競技會は既に山口氏方に於て一六の日開催し居れりと

●間島最近狀況

間島(爰には東間島のみを差す)には現今內地人四百人鮮人八十三萬人支那人三萬六千人居住せり內地人は重もに官吏にして實業に從事せるものは至つて僅少なり其內龍井村は從來日鮮淸人の居住者多く帽子山、局子街之れに次げるが近來は右三市とも居住者著しく增加せり而して鮮人支那人の農業者中々に多く將來農業の有望なるは言ふ迄もなし尙は內地人並に鮮人と支那人との間は昨今のところ至つて親密にして曩日の如き意志の阻隔感情の不和等あるを見ず要するに單り間島と言はず北鮮一帶の地は農業地としては將來極めて有望なり耕作物の種類は豆麻等宜しく次で蠶業果實殖林等は殊に適應せり而も現今の…

●民會と漢城病院

既報の如く漢城病院長去就問題は四日委員會に於て審議し同日開會の民會に提出したるが結局原案通り安藤院長の辭職を許可し馬淵醫學士の就任を認許することゝなりたるにより安藤院長は其の旨電報にて福岡なる馬淵氏に通知し同氏は近々入京し一切の引繼を受くべしといふ因に同病院と民團との賃借契約は四十七年三月迄なりと

●大屋長官一行の歸任 奉天に出張中なる大屋鐵道局長官及矢野稅關長の一行は五日夜歸任したり

●市原總裁の歸京 新義州開通式參列の歸途平壤鎭南浦廣梁灣等視察中の市原鮮銀總裁は五日歸京せり

●原法學博士の入京 辯護士法學士原嘉道氏は六日午前八時四十分南大門着の列車にて入京巴城館に投宿す

●總督府內の高等文官受驗者 總督府に任官するものにして本年度高等文官試驗に應せしもの約八名にて筆記試驗に合格せしは農商工部の長田氏鐵道局の鷲澤氏度支部の松井氏の三名なり

●岡田技師の歸任 平安南道へ出張中なりし岡田技師は昨五日歸任せり

●未墾地許可取消 美和作次郞外五名の名義を以て其の筋より許可されたる黃海道殷栗郡海安坊二里夢金洞にある八町七反八畝二十九步の國有未墾地は國有未墾地利用法第八條第二號及第五號に依り十一月二日を以て許可取消しとなりたりと

●靖國祭と軍の臨時休暇 六日は靖國神社の大祭なるに依り當地に於ても軍司令部、憲兵司令部等軍關係の諸官衙は臨時休暇をなせり

●總督府執務時間の改正 十一月一日より執務時間は午前十時出勤午後四時退廳の處七日より當分の內總督府職員は午前九時出勤午後四時退廳の事に變更せられたり

●仁川水產會社重役會 仁川水產株式會社にては六日正午十二時より重役會議を開き同社重役拘引前後策につき協議する處ありたりと云ふ

●鮮銀券發行高週報 十月二十九日より十一月四日に至る鮮銀券發行高左の如し

總發行平均高	一六、八六二、五〇三
內 正貨準備平均高	[illegible]
保證準備平均高	[illegible]

公人私人

▲水谷千力吉(平壤鑛業所長)四日投宿浦尾
▲宇賀原査(朝鮮皮革株式會社專務取締役)五日投宿山本
▲龍居賴三(南滿鐵道秘書課長)同浦尾
▲矢野八三郞(鎭南浦稅關長)同浦尾
▲山善四郞(鎭山技師)四月出發平壤へ
▲齊柳有美(扶桑新聞記者)同釜山
▲大澤淸高(會計檢查官)同開城
▲藪田岩(松東京建物會社重役)五日出發釜山
▲錢井英三郞(貴族院議員)同

十一月六日 金 高 二四四、二五一、四一〇 枚數 八一〇

▲茶袋▼

▲總理大臣任討軍總統として、事實上淸國文武の權を掌握して袁世凱は、革命軍の將軍黎元洪に向つて休戰を申込んだ、黎革軍總統は之に對して二十五ケ條の提案を附し安協に應ずべく返答に及んだそうな△袁世凱が最初から氣にして居たのは革命軍の處置であつた、そして其革軍處策が素より懷柔にあるは、彼が征討軍總督を拜命した當時に於て既に明らかにせられた△これ等の點より考へて、今回の休戰申込は別に不思議でも何でもないが、サテ袁黎の意思が疏通し愈々媾和を見るとして、武昌を中心とせる革命軍は戈を收めるであらうが廣東、雲南邊は太原邊から蜂起した革軍が直ちに平和の行動に出づるや否や頗る疑問である△よしんば、袁の懷柔策が見事功を奏したにしろ、袁の所置に對して激憤を抱く滿人なきを保せず特に袁が叛亂鎭定上資政院を背後から操縱して、淸皇室に加へし壓迫は滿人の反感を買ふてをる△今後と雖も革軍懷柔上此手段は袁にとつて免れ難い所であると同時に滿人の不快は益々昂進し終に袁の立場が危くなるは必然である、據て之を覺悟してをる袁の此場合に處する策や大に見物である△淸國騷亂で殆んど顧みられなかつた、伊土戰爭も此頃に至つて又もや火の手が揚つた模樣だ、土耳古軍はトリポリ恢復の總攻擊をやるため五萬の兵を動かすことになつたそうな、實際ならば是亦注目の價ひあり。

●覺醒した翡翠樓

或人僕を捉へて問ふて曰く『君は翡翠は嫌ひか』と、僕曰く『何故』客曰く『デモ、不斷同樓藝妓の惡口から主人の藝妓取扱等を批難するぢやないか』答へて曰く『惡い事あれば女房さへ叱る、叱るのが惡いか叱られるが惡いか』客曰く『翡翠では清華亭と樓とは西小門が鬼門ですと云つて居るぞ』僕問ふ『夫れで恨んで居るか』答へて曰く『ウンニャ大に改良の實を擧げて居る、惡口斗り書かず少しは好い事も褒めて遣り玉ゑ』僕曰く『成程』（僕生）

高利貸の番頭然として、翡翠の玄關に立つた、十一月一日午後四時五十分だ、丸髷藝の二十四五の仲居に案内されて二階の一室に案内された、背負つた床の間には黄白の菊の大鉢が据ゑられてある、室内には其の香が漾つて居る、仲居を相手に『立派な菊だ』なんて月並な囊詞を列べる『何でムいますか誠に不出來でして』と眞面目だ『イヤ左樣でない全く美事だよ』と此方も眞面目になる『デムいましようかしら』とニッと笑つて居る所へ二十三四になる美しい仲居が火鉢と茶を運んで來たが叮嚀に開手を突いて挨拶する、今日迄の同樓の不取扱振を知つてる僕には何だか

薄氣味惡い程叮嚀だ

斯うして油斷をさせて置いて勘定の方で法外の[illegible]のではないかと思ふとナンとも油斷はならない『僕はツイ二三日前京城へ來たもので樣子がチットモ分らないのだから何分宜しく頼むよ』[illegible]

今日東京から着いた斗りでれ猫と云ふ甘煮に刺肉に鯛焼に吸物と云ふ樣なもので飲る『藝妓が呼びたいナ』と言つて見て居ると中、京城の藝妓の連判帳を出す『此も改革の一つだな……』

家の妓を呼んでも宜いのか……他

と云つて仲居輩の顏色を窺ふ『エヽエ何所からでも』と平氣で居る『知つてるのは無いのだから誰れか此樓の妓の内から見立てゝ呉れ』と言つて待つて居ると軈て一美形が現はれる君子と云ふのだ、此と引違へて仲居達は出て行つた間に『君子さん此樓の主人の評判は麼うだい』と訊いて居る所へお榮とれ綱が入つて來た折惡しと思つたが跡の祭り、君子は一向頓着なしに『今度の樓主さんはソリャ優しいワ、ねお姉さん』たお榮の眼は僕の顏の上にギョロリと耀いた、序だと思ひ切つて『前のれ母さんは麼うだい』と言つて盃を取り上げた、僕の橫顏をヂッと見て居たる

仲居のお榮 唐突立ち上がつて

僕の脊中をドシンと喰はして胸倉を取つた『貴郎はマア』

彼れは僕を何所かで見知つて居た、而して今思ひ出したのであつた『眞實に酷い方だよ』と云つたお榮の聲は『眞實に酷い』聲だつた、現在の樣なれ氣輕方針で行つたら繁昌受合、併し長綱をせねば駄目であることは勿論だ

五藝妓涙の内情（五）

▽他人の娘を喰ふ人鬼

▲新義州を出發し[illegible]たる藝妓等十一名の者は堀內及吉田某等と門司より[illegible]船に乘りたるに主人と思ひ込める堀內は吉田に萬事を托して引き返したるにぞ妓等一同は不思議に思ひしに後に至り[illegible]

藝妓某々等の許に到着したる郷里よりの書狀あり何れも夫れを樂みとせる藝妓輩は取る手も遲く開封せんとせしに夫れより以前既に何人かの手に

▲開封されし形跡あり兎角檢査の結果封緘の箇所に生々しき飯粒の附着し居るを發見せしより一同の者に詰りたるに誰彼れとなく妾の先日受取りたるにも然ることありと思ひ居たるなるが此後來るべき書面に注意し若し開封せし形跡ありたる場合には誰にても开を受取りたる者が容赦なく領事館に訴へ出づべしと申合せて手紙の來るを待ち居たるに久しからずして

▲金時金彌金奴外數名に宛てたる親展書交附せられたるより一同は結果如何にと打ち集りて仔細に之れを檢し見るに悉く怪しき形ある內にも金時に宛てたる一通は開封せし形跡歷々たるにぞ今は既に疑ふ可らずと一同其日に受取りし手紙は一纏どし一通も開封せず機會の到るを待ち居りしが同地には領事館規則に依り

▲定例檢診の事あるにぞ其日を待ちて該取纏めたる手紙を領事館巡查に提出し當に私書の受取る手紙は斯くの通りで信書の秘密は保たれず不安の念に堪らざるを以て確と取調を煩はしたしと許へ出でしに巡查も大に同情し該書狀の求た悉く受信人自身の手にては開封以前なるを確かめ至急何分の處置ある樣小官よりも具申する所あるべしとて之れを一括して證據物件として領事に持歸りたり（つゞく）

●二兒を抱いて入水

△生活難を苦にして

龍山[illegible]外拾六統六戸鄭召史（[illegible]）は貧困の餘り四日二兒を抱きて漢江に投身自殺を遂げたり氣の毒にも哀れなる事共なり

●尋ねる娘は居所不明

▽老父木賃宿に泣く

熊本縣熊本市西坪井町八十四番地村上鶴平（五〇）は實子たる宮崎ます（三二）が龍山老松町四十二番戸に居住せるを便りて今回渡鮮せしがますは先頃京城西大門邊へ轉居せし由にて搜索せしも居所不明に付龍山警察署に願出てたるも更に心當りの處なく目下鶴平は龍山旭橋通り木賃宿肥前屋方に滯在中なるが同人の懷中の貯とてはなく途方に暮れ居りつゝありと老の身の誠に氣の毒なる老人なるかな心當りの人あらば知らせてよ

●京日主催庭球大會

京城日報主催の庭球大會は五日龍山鐵道局のコートに於て開催せられたるが極めて盛會なりしと

[illegible]

●自轉車にて轢傷

原籍龍山東幕[illegible]里三十九戸當時龍山川端町二十番戸魚市場雇人鮮人張釧（二九）は五日午後二時警鈴の付かざる自轉車に打乘り疾走中若松町通りに於て同町三十三番戸大畑常次郎長男政雄（二）を轢き倒し負傷せしめし廉により龍山警察署に於て笞三十に處せられたり

●仁川の賭博

去五日午前一時頃仁川花房町二丁目十一番地船乘業橋本敬七（三七）方に於て同町岡田繁一（二八）同森井榮太郎（三六）仲町松本大五郎（三七）濱町二丁目長元鶴吉（三七）の五名車座に成て賭博の眞最中森澤、中島、二宮の三巡查踏込み一同取押へ珠數繫ぎに本署に引致目下取調中

●橫着店員の公判

福岡縣遠賀郡長津村中間生れ岡部榮三郎（二五）は昨年十一月より北米倉町二十八番戸雜貨商井町寛穗方に雇れ中買掛代金六十餘圓を橫領費消し其筋に檢擧され野田檢事の手にて公判に付せられしが來る十三日京城地方裁判所に於て公判開廷せらる可しと

●新龍山のボヤ

六日午前一時龍山新市街山下町陸軍官舍より發火せしが大事に至らずして同二時鎭火せしとは不幸中の幸なり原因は風呂場より焚き出したるものなりと

●道路使用法違反

中部寺洞三十一統四戸宋昌仁（三六）は六日午前十一時頃自宅前街路幅一間使用の許可を得て其實幅八間を使用し告發され北部署に於て笞刑十に處せらる

●一小便が尻七ツ

西部孔德里十六統八戸梁和錫（三五）北部大安洞一統二戸徐[illegible]（[illegible]）は何れも街路に放尿して笞刑各七に處せられたりとぞはや／＼

●演藝だより

▲佐久良座　綠會一座今七日夜の替藝題は『壽婦辨天れ貞』通しにて其の重なる役割は左の如し

壽婦れ貞（伊勢）娘れ新（池田）淫婦れ光（花村）鹿野瀧三郎（星　作兵衛、鹿野松三郎（大山）若旦那三郎（橫田）下女れ竹（中村）巡查原（坂本）署長篠崎（宇野）小使稻田（松村）刑事渡邊（小山）部長久保田（山田）

▲浪花館　竹本小浪一座の娘義太夫今七日の夜の語り物は

御祝儀（入登）阿波鳴門八ッ目（尖昇）本殿下屋敷　照繪　朝顏宿屋（小町）日吉丸三（數榮）三勝半七酒屋（九重）泉三郎館（小浪）千兩幟猪名川內（總掛合）

●壽座に千里眼

藝仙を出した宮城縣の氣仙沼から自覺術者と稱する三田光一なる不可思議な男を出した、東京では明治座、京都は新京極明治座に興行して新聞記者等を驚倒した、自覺術は千里眼に類たる透視で着々成功した事は當時の三都諸新聞に依つて詳細を傳へられた、夫れが來る七八日頃當地壽座へ乘込むと云ふ他が感心したからとて未だ見ぬ自身には感心も不感心も出來ぬから茲には唯近日乘込む相だと云ふ紹介だけに止める（〇生）

●京城樓の菊花壇

新町遊廓京城樓に於ては例年の通り西大門外金華園の栽培に係る良菊を各室に飾り立て目下菊花壇を作りあり中に新荒龍、千羽鶴、宿の一本、金茶釜等あり是れは金華園の十八番特別菊にして白牡丹、玉垣接木、是れは根は一本にして花輪は千羽鶴、夜光玉、紫雲鶴の三種ありて中々珍らしき菊花なり其他旭の瀧外數十種も黄に白に紅に滿開し各妓の部屋にも名菊數鉢宛飾りありと

●仁川藝妓の腕比べ

十月中に於ける仁川藝妓の奮闘成績を御披露仕れば左の通りなり

福太郎、久子、玉勇、生駒、米蝶、桃太郎、萬歲、榮丸、丸八、富久之助、桝菊、莉子、梅子、朝日、三桝、桝子、千代子、榮太郎。榮吉、一若、政尾、八重山、三笠、合邦、春日、一子、知久子、政榮、奴、いさむ、小力、小久、ふさ子、小萬、れ京、君之助、鈴谷、松子、松島、よし子、〆太、常子

●太平町衛生組合に就て

過日發行の京城新報平民文庫欄に於て（太平町民）よりの質疑に對して小僧君より小生が組長の樣に御答に預り難有仕合に存するも少々間違の筋あれば更に小生より「太平町民」君にれ答申す小生が組長就任したのは明治四十年十月即ち皇太子殿下御渡韓の際でもつて當時恰も虎疫は猛烈を極め防疫部の方針に從ひ是非共是が撲滅を期せんとの必要に迫り茲に始めて衛生組合を組織したもの無論鮮人雜居町にて町名だになき時の民長と協議の上太平町と命名し[illegible]の頻死に病める者を顧みず一時家業を拋ち專心之が目的を達せんことを期せり爾來引續此榮職を汚せしが少しく感ずることあり四十三年四月十六日組合評議會を開き更に撰擧を行ひ組長には榊原長緒氏副組長には三浦幸一郎氏當撰事務引續々了し直に辭任届を提出せり爾來榊原君に於て熱心其衛に當り居らるれば右御承知ありし尙太平町創始以來の記錄現組長に供へあれば御一覽あらば一目瞭然小生在職中不平の廉は御尋ねあれば何時にても明答致さん（渡邊太郎）

平民文庫

▲仁川には忌はしき紳士が蔓つて居て土地の體面に係はる天長節祝賀會の會場で肴をハンカチーフに包んで持歸つた面々は增田、松野、吉田、藤本なんぞの外にも二三人有た僅か五十錢の會費で他人の食ふべき干乾びた肴の一片二片までを持歸るとは情けない奴共だ（受付の一人）▲過日仁川の鐵道ガードの男が自轉車にて線路を通りかゝつたスルト向ふより官服姿の男が二人來て俺は鐵道院だ此樓は自轉車で線路を通るとは不都合な奴だと云ふなり番頭姿の男を滅多打に打擲し其上に靴で蹴飛して立去つた何程役人でも餘り酷い仕打ちだと思ふた（鐵橋の上の老人）▲京城櫻井町常盤軒前の『うどん屋』に一寸御注意申候貴店のうどんは却々美味で然かも安價で近所の評判もよいが夫婦共未だ客に對し頭がさがらぬ蚤然さがらぬでもないがさげ方が下手だ今少し上手に頭をさげてれ客に接しなさい因みに主人公が髭を削られたるは感心の至りだ併し美味で安價なのは慥に京城一だ（京城のうどん喰）▲三日の日花月で催された活版現業者懇親會に關する不平活版界の一小僧なる人より投書ありしも感情上の行違ひと思ふに依り直接御忠告あらんことを勸めして投書は沒）（係）▲先月來京日紙では娘一人に婿八人とか圖米困難或は遂に大提ならんとか色々硬派の御提燈を持て居た仁川の定期米十月限に御覽の通り圖米は容易出來たも硬派では受取に能力が無い爲め取引所では處分するとか何どか騷で居たが毎度ながら同社の卓見には感心する（草伊三）